



全国家康公ネットワーク設立総会 徳川家臣団大会2016(徳川みらい学会第1回講演会)を開催

昨年は徳川家康公薨去四百年を迎え、全国各地でさまざまな記念事業が実施されました。

この取り組みを「過性のもの」とすることなく、引き続き静岡県および静岡・浜松・岡崎の3市ならびに全国の家康公ゆかりの地の魅力向上を図り、観光交流など地域活性化を推進することを目的として、「全国家康公ネットワーク」を設立しました。

また、家康公御命日の前日に、全国の徳川家臣の子孫たちが家康公の眠る駿府(静岡市)に集い、先人の残した遺産や遺徳を偲び、合わせてその智慧を学ぶ「徳川家臣団大会2016(徳川みらい学会第1回講演会)」を開催しました。

(4月16日(土))ホテルセンチュリー静岡で開催) 徳川ゆかりの地を結ぶ「全国家康公ネットワーク」設立総会

全国家康公ネットワーク設立準備会の代表である当所の後藤会頭の挨拶後、議事に入りました。



3市長、3商工会議所会頭、顧問には静岡県知事が選任されました。

また、徳川ゆかりの地域の法人等として特別会員として募集して全国ネットワークを築き、今後も顕彰事業を盛り上げていくことが決まりました。

歴史ファンなど500名が参加した「徳川家臣団大会2016(徳川みらい学会第1回講演会)」

3回目の開催となる今回は、家臣団の子孫の方々60名をはじめ、徳川みらい学会会員や歴史ファンなど500名が参加しました。

徳川宗家18代当主の徳川恒孝氏、徳川みらい学会会長の芳賀徹氏の挨拶後、当日参加いただいた「柳営会」牧

之原開拓幕臣子孫の会」「開陽丸子孫の会」「万延元年遣米使節子孫の会」「威臨丸子孫の会」を紹介しました。

シンポジウムの前には、当会議所の「余ハ此處ニ居ルプロジェクト」で開発されたお弁当を楽しむ昼食交流会、シンポジウムの後には、会場を浮月楼に移して駿府交流会を開催し、徳川家臣団の功績等について、和やかに懇談しました。

全国家康公ネットワーク、徳川みらい学会について

その後、会津美里町天海大僧正顕彰事業委員会委員長の遠藤秀一氏、本多弥八郎宗家15代の木村敦明氏、歴史小説家の泉秀樹氏が加わり、「平和の礎を築いた徳川のブレインたち」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

全国家康公ネットワークは、全国の家康公ゆかりの地の魅力向上を図り、地域活性化を推進するため、家康公顕彰事業を実施します。特別会員の申込、共催事業・後援事業の承認申請、シンボルマーク使用の承認申請については、左記HPをご覧ください。

<http://www.iejyasu-net.com/>

徳川みらい学会は、世界史上、例をみない265年に及ぶ平和を築いた「徳川時代」を改めて研究し、その知恵や歴史的意義を内外に発信するため、年6回の講演会の開催、年2回の学会報の発行などを行っています。個人会員(年会費1万円)、法人会員(同5万円)の申込については、左記HPをご覧ください。

<http://www.tokugawa-mirai.com/>

